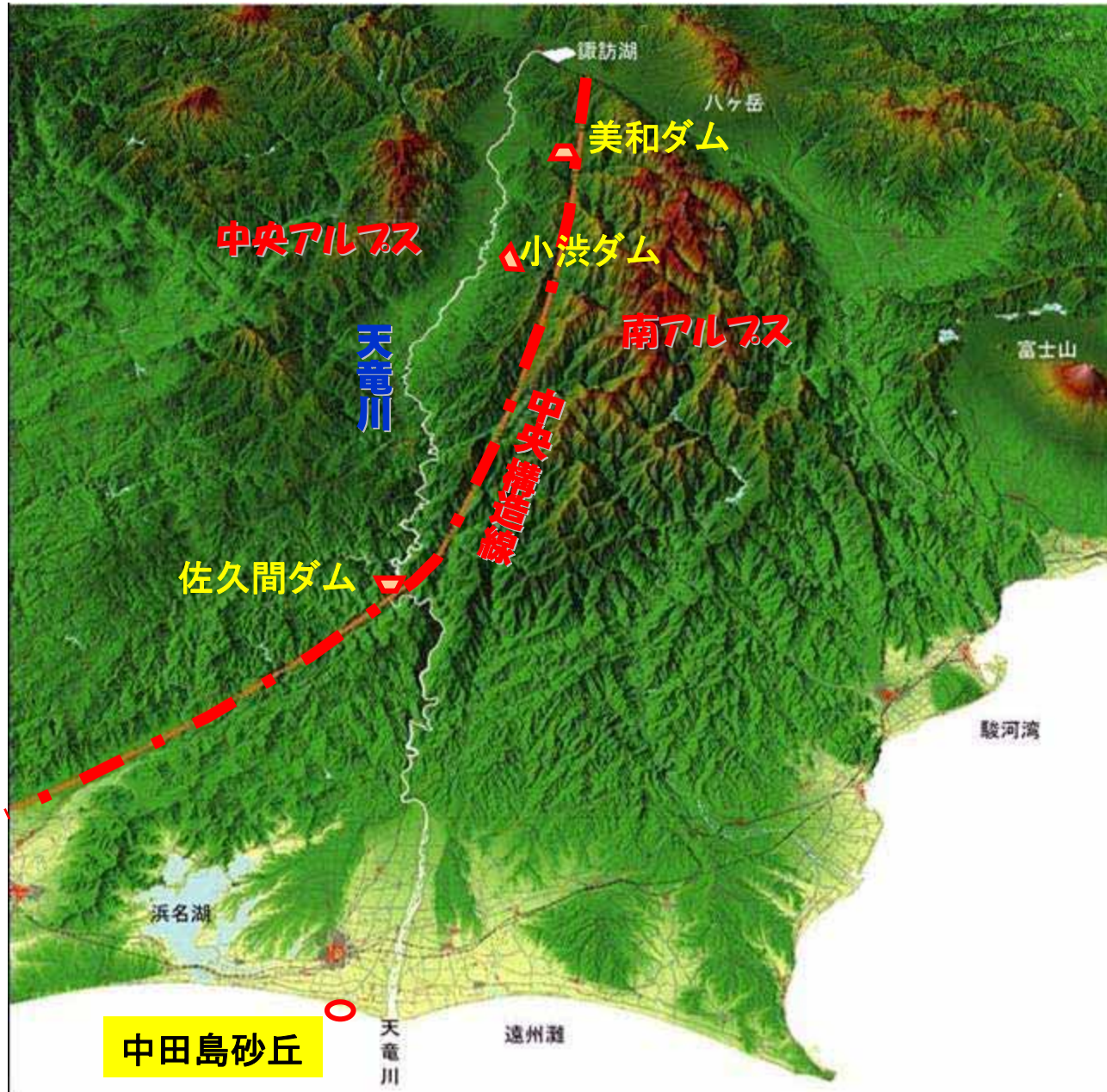


資料-4 天竜川ダム再編事業について

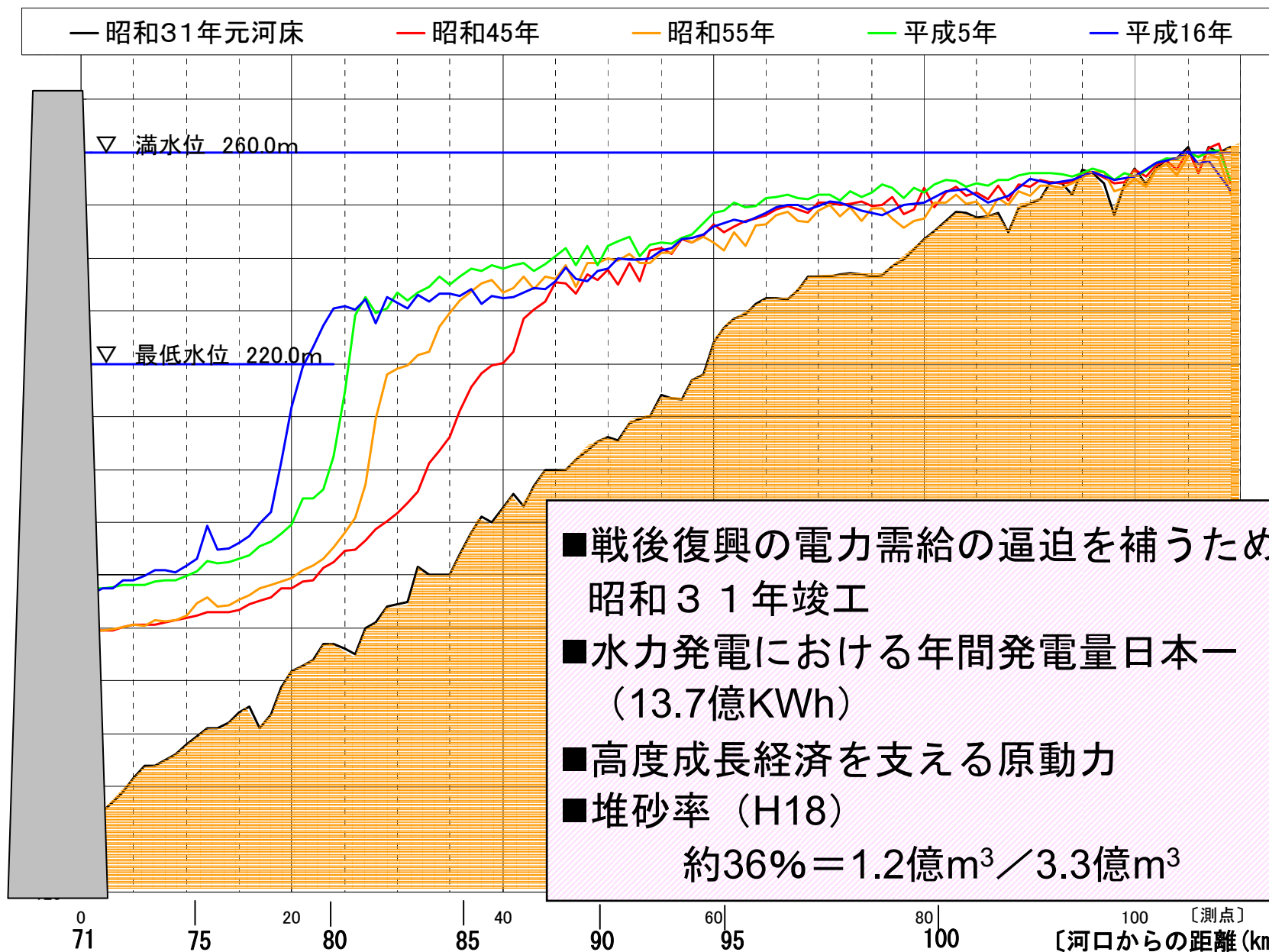
天竜川と中央構造線



佐久間ダムにおける堆砂の進行

第5回 天竜川
流域委員会 資料-4

(最深河床高)



■戦後復興の電力需給の逼迫を補うため、昭和31年竣工

■水力発電における年間発電量日本一(13.7億KWh)

■高度成長経済を支える原動力

■堆砂率 (H18)
約36% = 1.2億m³ / 3.3億m³

浜松篠原海岸（中田島砂丘）における侵食被害

第5回 天竜川
流域委員会 資料-4

- 海岸が侵食され、埋め立てられたゴミが露出・流出。
- 中田島砂丘前面の海岸汀線が最大約200m後退。



平成15年12月撮影



総合土砂管理 よくほうしがん ～抑崩止岩 りゅうさぞうひん 流砂造浜～

■土砂生産域では、土砂災害に備え、堰堤や流路工等の砂防施設により、崩落を抑制するとともに巨岩の流下を防止しつつ、適切な土砂の流下を確保する。



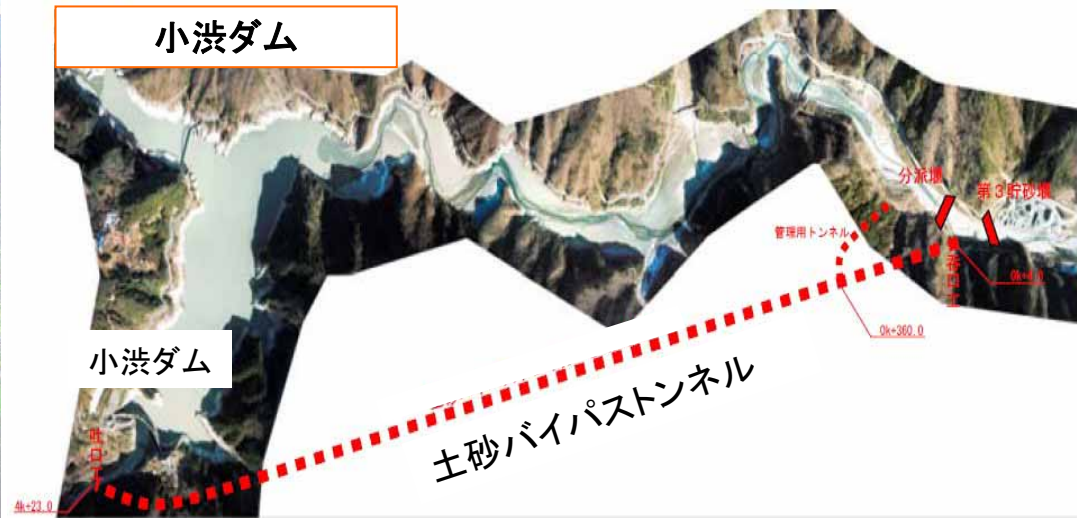
総合土砂管理 ～抑崩止岩 流砂造浜～

よくほうしがん

りゅうさぞうひん

第5回 天竜川
流域委員会 資料-4

■ダムにおいては、土砂の堆積による機能低下に備え、堆砂容量の設定及び排砂施設の整備により、土砂の流下を確保する。

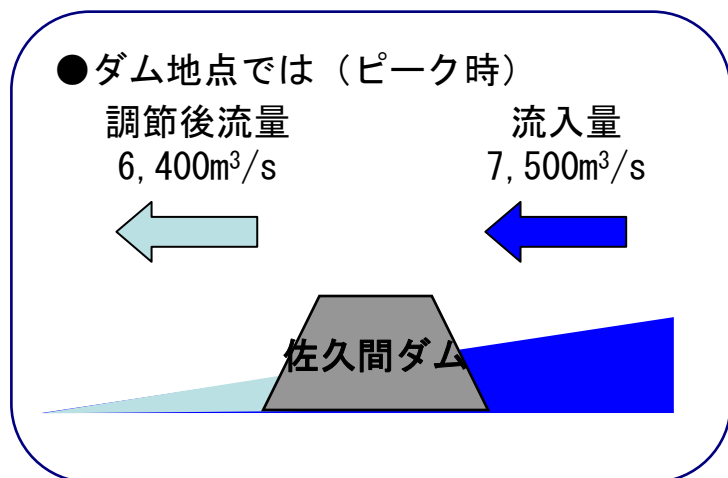


- 洪水調節機能を確保して、天竜川中下流部の洪水氾濫から人々の暮らしを守る。
- 洪水調節機能を確保し続けるために、洪水調節容量内に堆積する土砂をすべて流下させる。
- 海岸侵食の抑制等を目指す。



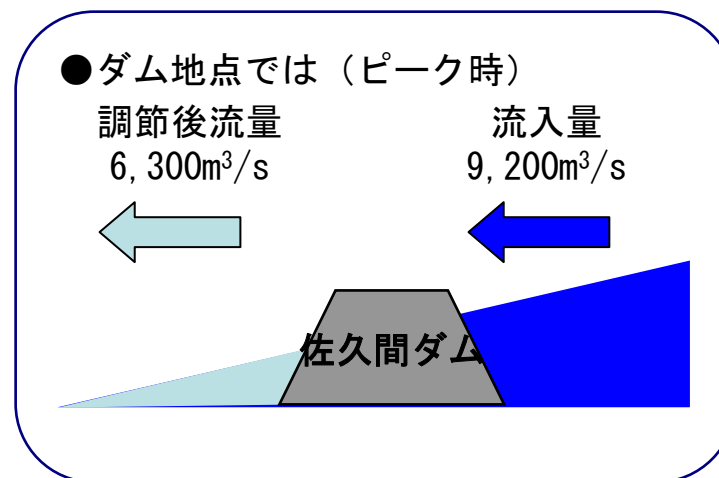
■佐久間ダムで洪水調節を行うことにより、天竜川中下流部の洪水氾濫から人々の暮らしを守る。

戦後最大規模相当の大洪水が来たら



基準地点鹿島地点では
流量低下量 約700m³/s
水位低下量 約0.35m

150年に1回の大洪水が来たら

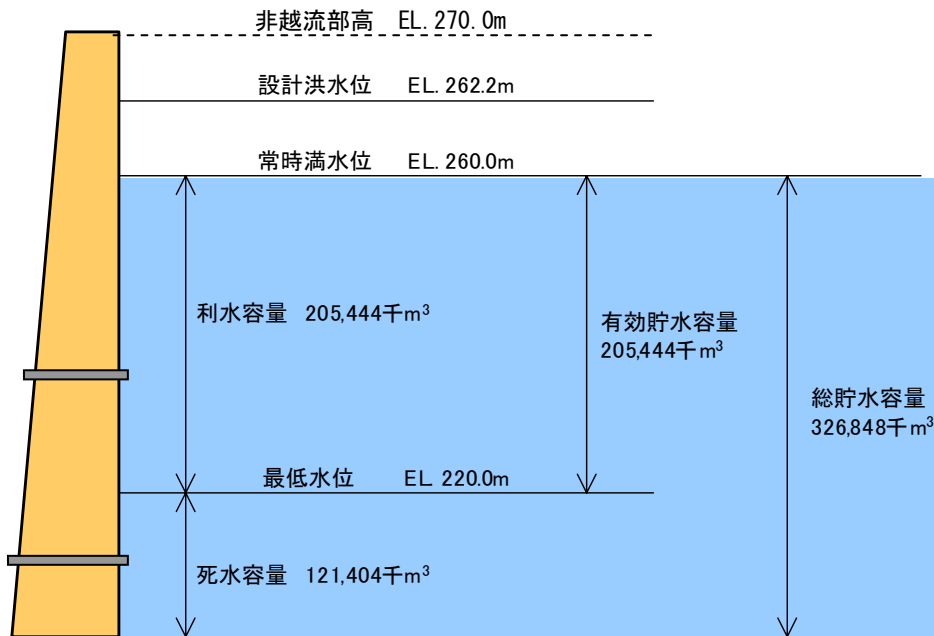


基準地点鹿島地点では
流量低下量 約2,000m³/s
水位低下量 約1.0m

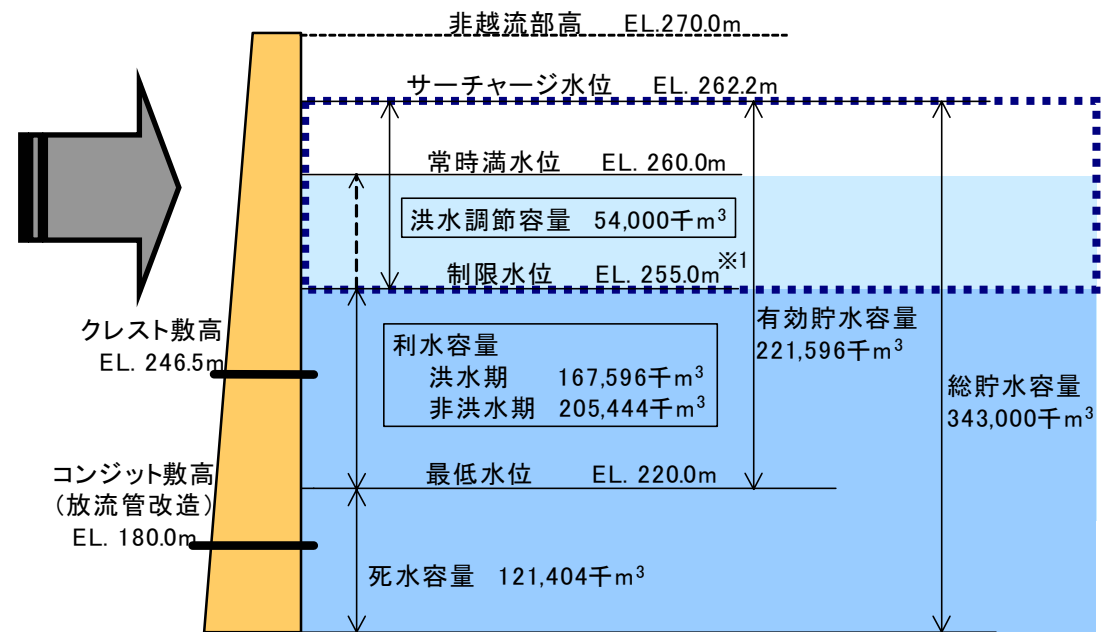
佐久間ダム貯水池容量配分図

■制限水位を設定し、洪水調節容量を確保する。

＜現状の貯水池容量配分図＞



＜再編後の貯水池容量配分図＞
(洪水期：6/1～10/31)

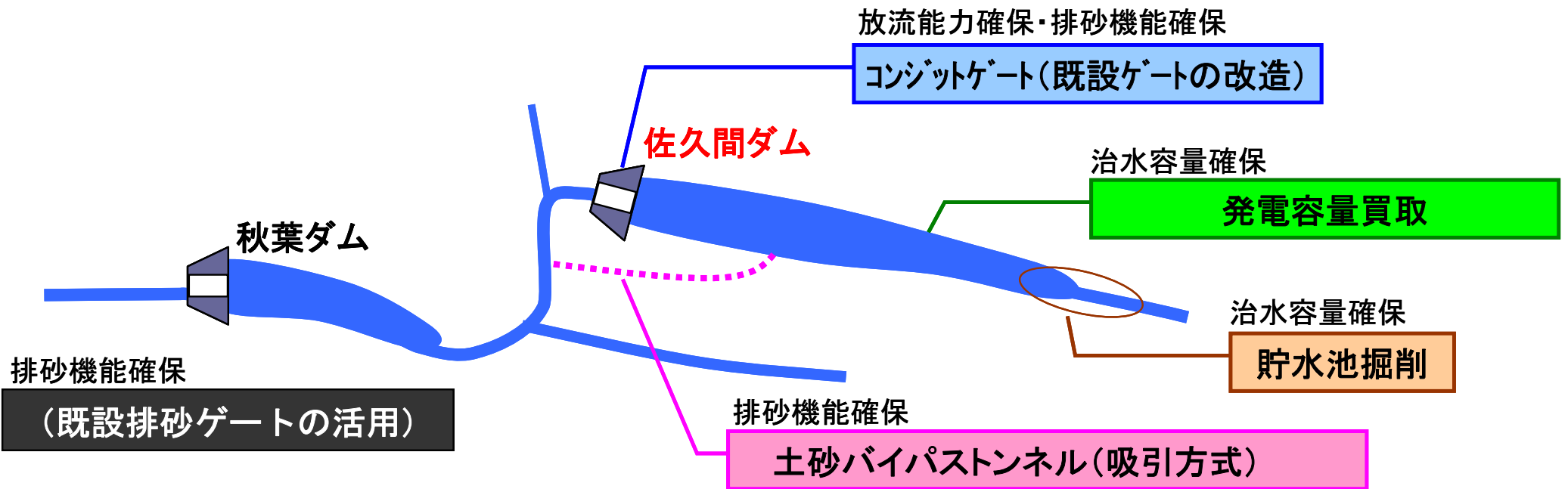


※1 検討中

施設計画概略平面図

天竜川ダム再編事業

第5回 天竜川
流域委員会 資料-4



流下土砂量の予測（試算）

- 海岸汀線維持に必要な河口への砂※1は、推定約40万m³/年。
- 天竜川ダム再編事業により、佐久間ダム下流への砂が0m³→約20万m³/年に増加し、河口への砂が約10万m³→約30万m³/年に増加することが期待される。

※1 造浜に寄与する0.2~0.85mmの砂成分

